

愛媛 F C ・ 愛媛マンドリンパイレーツ健全経営委員会

結果概要

日 時：令和 7 年 8 月 27 日（水）14：00～
場 所：愛媛県議会議事堂 4 階 総務企画委員会室
出席者：田中 雅人 委員長
横山 めい 委員
白石 信二 委員
黒田 敬 委員
村上 茉利江 取締役（㈱愛媛 F C）

■愛媛 F C の健全経営について

発言者	内容等
㈱愛媛 F C	[協 議]「愛媛 F C の健全経営について」 ○資料説明 ・ 2024 シーズンの事業実施状況等について ・ 2025 シーズンの取組みについて
委員	○質疑応答・意見交換 チーム経営について 広告収入の増加について、詳しく説明願いたい。
㈱愛媛 F C	スポンサードのメニューは 20 年前に設定したもので、近隣クラブの相場と比較してかなり低かったが、定価の見直しのきっかけがなかった。愛媛 F C が J リーグに参入して 20 周年を迎えたことや、J 2 に復帰したこと、昨今の物価の高騰を考慮し、定価の見直しを行った。各クラブが売上を伸ばしている中、最低限 J 2 に居続けるためには今の力では足りないという点を企業に理解してもらい、協力いただいたことが一番の要因。
委員	J 2 昇格後の新しいスポンサーの開拓についてどう分析しているか。また、支出について、令和 5 年度から 6 年度にかけて人件費が増えた要因は何か。
㈱愛媛 F C	新規のスポンサー獲得に向けて、新しいスポンサードのメニューを作っている。愛媛 F C は、J リーグの中でも育成が上手なクラブと評判いただ

	いているが、Jリーグに限らず世界で活躍できる選手を育成し、その選手が愛媛F Cに戻ってきて後輩の育成をするといった流れを目指している。2022年には、県内外、アジアやアフリカの国外までスカウティングを広げ、愛媛F Cがあるからこそプロになる夢を叶えられるような若手人材を、世界トップリーグまで派出させる、「愛媛から紡ぐ」という新たな育成ビジョンを策定した。このビジョンにシンガポールの会社である Eastern Pacific Shipping に共感いただき、選手のスカウティングや獲得に資金を充てる形で支援いただいた。また、ユニフォームと同じ生地 of T シャツを企業に作成してもらい、観客に配布するというユニフォーム企画を行ったが、露出効果が大きく、昨年度以上のスポンサーが集まった。自助努力だけでやっていた取組みに共感し、応援してくれる企業がいることが分かったため、様々な応援の仕方を提案することで、今までと違う形で応援してもらえないのではないかと期待している。 また、人件費については、ほとんどがトップチームのもの。予算を増やしてはいるが、J2クラブの中では下位に位置しており、戦っていく上ではまだ足りない。予算と戦績は、10年ぐらいのスパンでみると相関するという結果が出ているので、もっと増やす必要があると感じている。
委員	地元選手よりも県外の選手が多いのか。 また、選手引退後は、地元に戻る傾向が強いのか。
(株)愛媛F C	レディースは県外選手のほうが多いかもしれないが、トップチームは昨年、ホームグロウン選手が3割を超え、Jリーグのクラブの中ではかなり多かった。 また、引退後は地元に戻る選手が多い傾向はない。例えば、河原氏は埼玉出身だが、引退後は愛媛でコーチとなり、現在監督のライセンスの取得を目指している。県外の選手も愛媛が好きで、栗山氏のようにコーチとして残る選手もいるほか、松山出身の藤本選手や曾根田選手のように最後のキャリアは愛媛と考え、帰ってくる選手がとても多い印象。
委員	そういった形で愛媛や松山に残ってもらえればと思うので、頑張ってもらいたい。
黒田委員	スタジアムイベントについて スタジアムイベントはすっかり定着していると思うが、ほかにやりたいアイデアはあるか。
(株)愛媛F C	人気のあるアーティストやタレントとのコラボも考えてはいるが、勝利時に行う餅まきなどのイベントに対し、他クラブからも参考にするといい

委員	う声があるので、愛媛の魅力を知ってもらい、それが広がっていくような取組みをしていきたい。
(株)愛媛F C	2025 シーズンのトップチームについて 今シーズンは厳しい状況にあり、負けを恐れず勝ちに行く姿勢が重要だと思うが、この先、J 2でこうやっていきたいというビジョンはあるか。
委員	クラウドファンティングについて 現在の状況はどうか。
(株)愛媛F C	クラウドファンティングとは異なるが、ビルドアッププロジェクトという形で継続して行っている。ユニフォームなどのグッズに付加価値をつけ、その収益を強化に充てていくための取組みである。今後は、チケットについても、強化に 100 円充てるといような販売の仕方も模索していきたい。
委員	育成について 育成目標に対する評価はどうか。
(株)愛媛F C	アカデミーについては、今年、島佑成選手がスウェーデンの 1 部リーグに移籍し、国際籍第 1 号が出たことはしっかり評価していきたい。愛媛 F Cに関わった人が、サッカーの分野だけでなく人間としても成長していけるようなクラブになるよう挑戦しているが、育成や勝利の時間軸をかみ合うところに設定できなかったことが今の結果になっていると思うので、まずは結果につなげていくことが引き続きの課題。人が育つ構造や環境をしっかりと突き詰めて、今後につなげていきたい。
委員	スポーツをする子どもたちが減ってきている中で、最初の入り口が大事だと痛感している。現在行っている学校訪問を継続していただくほか、試合を通じてサッカーの魅力を伝えてほしい。育成することもだが、将来プロになっていく子どもたちを掘り起こすことも大事だと思う。

（株）愛媛F C	スタジアムの屋外広場で子ども向けのイベントを実施しており、将来サッカーをする子どもや観客としてサッカーを楽しむ子どもを育むことにもつながると思う。子どものときに広場で遊んでいた方で、今は観客として来ている方もいるので、継続しつつ、さらにアップデートしていきたい。
-----------------	--